

サービスサイエンス研究センター Service Science Research Center

Research on service science based on practical data mining application, and related education program.

設置目的

サービスサイエンスは、社会科学、自然科学等の幅広い研究分野を学際的に研究されるべき分野であり、データマイニングは、そのコアとなるアプローチの一つである。このような研究を包括的に実施するには、様々な研究フィールドから入手されるデータを効率的かつ効果的にマイニングする連携が重要となる。また教育面においても、平成20～22年度に旧経済学部で採択された文部科学省の質の高い大学推進プログラム(GP)である『販売現場に密着した問題発掘型スタディーズ』は、複数の教員で運営された実践的なデータマイニングに関する教育プログラムであり、GP終了後も継続して教育プログラムを実践し、データマイニングを実践可能な人材の排出に寄与している。

上記に関連する共同研究および教育プログラムを推進するための拠点と位置付け、本研究センターを設立した。

研究内容の概要

1. データマイニングに関する研究

基礎的な手法の研究から、応用研究まで幅広く対象とした研究を行う。応用分野は幅広く、マーケティング、経営、心理学など多岐にわたる。基礎から応用までの幅広い研究をすすめることで、共同研究を推進し、より大規模な外部研究資金の獲得を目指す。

2. 教育プログラム『販売現場に密着した問題発掘型スタディーズ』の継続的運営とその発展

GPの継続を本研究所の事業の一つと捉え、参加可能な教員を募って、問題解決型のデータマイニング教育としての一層の充実を図る。より実践的な部分について発展させ、インターンシップなどの授業にも利用できるような工夫を図る。

3. データ収集を実験的に実施する研究

これまでデータマイニングの基礎研究および応用研究には企業での実データを企業から提供してもらう努力を行ってきた。このようなデータは有益ではあるが、一方で個人情報保護などの制約も厳しく、より自由に研究を行うことのできるデータソースが望まれている。加えて、これらのデータは企業活動を記録したものであるが、特定の企業のアクション(例えば小売業における各種のプロモーション活動)と連携したログデータとして利用することは困難な場合が多く、そのようなプロモーション効果の検証を目的としたデータは綿密な計画のもとに実験的に取得することが望ましい。この点を解決するため、実店舗を使って、実験を可能とするフレームワークを研究し、実際に店舗実験によりデータ収集を目指す。

サービスサイエンス研究センター研究員

◆ 第1学群

- 社会科学系 教授：荒木 長照 / 近藤 真司 / 中山 雄司 / 森田裕之(所長)
- 人文科学系 教授：井手 亘

◆ 第2学群

- 電気情報系 准教授：柳本 豪一 / 佐賀 亮介

◆ 設立年月日 平成25年(2013年)9月1日



サービスサイエンス研究センターへのアクセス



中百舌鳥キャンパスまでのアクセス

- 南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約500m、徒歩約6分。
- 南海高野線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約1,000m、徒歩約13分。
- 地下鉄御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から南東へ約1,000m、徒歩約13分。
- 南海高野線「中百舌鳥駅」・地下鉄御堂筋線「なかもず駅」から南海バス(北野田駅前行31、32、32-1系統)で約5分、「府立大学前」下車。
- 南海本線「堺駅」から南海バス(北野田駅前行31、32、32-1系統)で約24分、JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス(北野田駅前行31、32、32-1系統)で約14分、「府立大学前」下車。

お問合せ先

第1学群 社会科学系 教授：森田 裕之

Tel 072-254-9586 / Tel 2532(内線) / Eメール morita@eco.osakafu-u.ac.jp

サービスサイエンス研究センター研究内容

所属：現代システム科学域 / 知識情報システム学類 氏名：荒木長照

研究内容：コンテンツ・マーケティングの研究

有償のコンテンツには、授業や書物等の知識系、コンサートやイベントなどのライブ系、報道や情報などのデータ系、映画や漫画、音楽などの物語系などがあります。特に物語系のコンテンツは、商品やサービスの広告やブランド作りに頻りに利用されます。また、物語系以外のコンテンツの広告でも、映画のキャラクターや音楽の世界観などを使って物語性を付与することで、物語系コンテンツとしてマーケティングが行われることもあります。このように、さまざまな価値創造に利用される物語系コンテンツ自身が持つ魅力（市場価値）を評価したうえで、それらを広告やブランディングに用いたときの対象商品価値への価値移転あるいは価値拡張効果の分析を行うことは極めて重要であると言えます。特に、昨今のコンテンツのデジタル化の進展や、インターネットの高速化によって、コンテンツへの接触機会の爆発的増加とコンテンツの複製の容易性は新たな課題を我々に突き付けています。また、少子高齢化に伴い、日本各地で盛んになってきた地域おこしでも、さまざまなコンテンツが利用され始めています。効果的なローカル・コンテンツの開発や利用に対して深い知見が必要とされています。このようなコンテンツの諸相とそこから生ずる価値を定量的に研究しています。



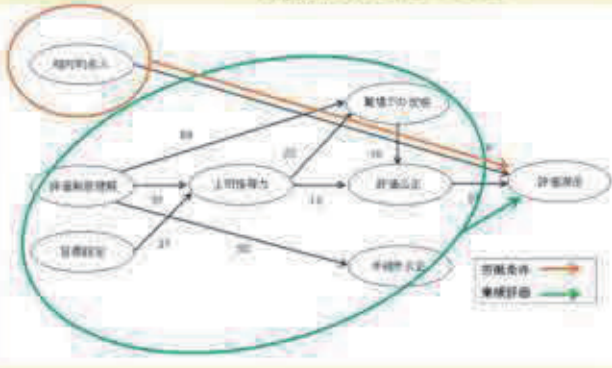
公共財としての「くまモン」

所属：第1学群 人文科学系 教授：井手 亘

研究内容：組織での行動の動機づけと評価

サービスの研究では、サービス行動やその生み出す価値と同時に、それを行う側の動機づけや心理的な反応も重要な研究課題となっています。このような組織における従業員の評価・動機づけについて、社会心理学、組織心理学の立場から従業員対象の調査データをもとに多変量解析を用いて研究を行っています。最近の研究ではサービス産業の主要な担い手となっている非正規労働者について、労働に対する評価がどのように受容されているかを評価制度、職場内での相互作用、それに対する心理的な評価の点から検討を行っています。

井手亘 (2012), 経営行動科学学会年次大会
発表論文集15, 244-248.



所属：現代システム科学域マネジメント学類 氏名：近藤 真司

研究内容：行動経済学の研究、経済学説史の研究、企業家論の研究

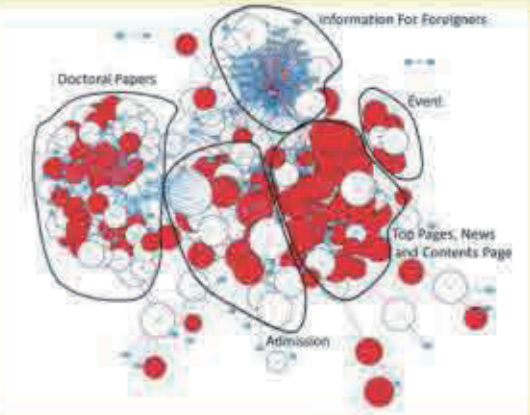
研究では、広い視野と時間的な空間に立って経済学を見ていきたいと思っています。ゼミナールでは、学生たちとノーベル経済学賞を受賞した行動経済学分野の勉強をしています。経済学の教科書では、人間の行動は合理的に行動することを前提としていますが、必ずしもその通りになっていません。意外に、人間の経済行動は感情や心理学的なものに左右されています。店舗実験でデータを分析することにより、人間の経済行動の合理的な側面と感情により左右される非合理的な側面が明らかにされるとおもいます。

所属：工学研究科 氏名：佐賀 亮介

研究内容

データを対象とした研究を行っており、Webや文書を対象としたマイニングや可視化を主に行っております。また、経営情報システムに関しても研究をしており、ログ解析だけでなく、その可視化も含めて研究しております。最近では、可視化技術を生かしたサービスサイエンスにおけるギャップ表出化に関する研究も行っております。

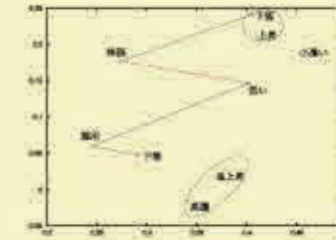
大学のWebアクセスログの可視化例



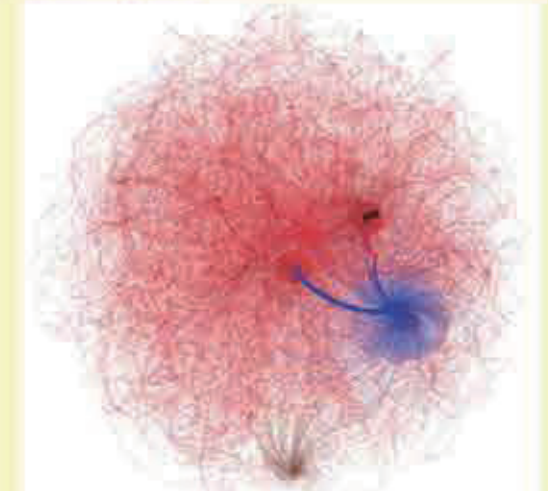
所属：現代システム科学域 知識情報システム学類 氏名：柳本 豪一

研究内容

機械学習を用いた大規模データからの知識発見に関する研究をしています。アクセスログの解析や株式ニュースの解析を教師なし学習の枠組みで解析しています。



株式ニュースを用いたStatistical Semanticsによる関連語発見



アクセスログのネットワーク解析による特徴ページの発見

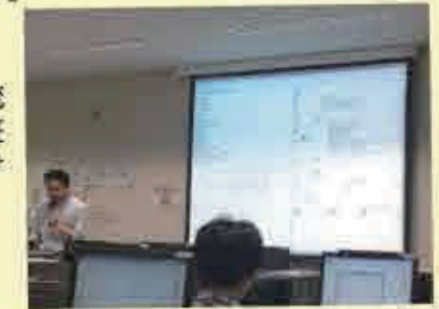
所属：現代システム科学域マネジメント学類 氏名：中山雄司

研究内容

経営学におけるマーケティング・サイエンスの分野において、流通チャンネルに関する理論研究と小売マーケティングに関する実証研究を行っています。この分野は、分析手法としては、経済学における産業組織論とも重なる領域です。最近では、Eコマースの理論および実証研究を行っています。

最近の論文

"Opening a Direct Digital Channel: the Impact of Versioning on the Physical Product Market with Heterogeneous Retailers" Discussion Paper New Series No. 2013-4, School of Economics, Osaka Prefecture University



所属：第1学群 社会科学系 氏名：森田裕之

研究内容：データマイニング応用に関する研究

ビッグデータと呼ばれる多様で大量のデータを活用できる環境が、社会で整ってきています。企業や社会における様々な問題解決のために、これらのデータを適切にマイニングするための手法を開発し、実際に活用するための研究を行っています。

